



株式会社ニデック 環境報告書 2013

NIDEK Environmental Report 2013



THE ART OF EYE CARE



目次

環境経営の推進にあたり・行動憲章・方針

環境経営責任者からのメッセージ	2
環境方針	3
ニデック環境管理推進組織図	4

環境活動

2012年度環境保全活動の目標と実績	5
2013年度環境保全活動の目的・目標と設定趣旨	6
工場の環境負荷概要	7-9
2012年度環境パフォーマンス	
CO2排出量 (参考: 浜町・大沢工場太陽光発電実績)	10
廃棄物量／PRTR法対象化学物質使用量	11
環境調和型製品のご紹介	12
エネルギー／資源消費量・廃棄物排出量の推移	
電力／重油	13
市水／最終廃棄物	14

社会活動・企業情報

CSRに関する取り組み	15-16
企業概要	17
工場概要	18
報告書基本情報／お問い合わせ先	19

メーカーとしての役割を、 環境経営においても果たしてまいります。



2012年度の環境活動をご報告するにあたり、未曾有の被害をもたらした東日本大震災の影響は未だ大きく、被災された皆様にお見舞いを申し上げますとともに、被災地の復興を心より願っております。

2012年度は、国内外において政治・経済の変動が大きく、企業経営において外部環境の変化による適応力が問われる年となりました。外部環境がどのように変化をしても、当社はその変化を予知しながら柔軟に対応をし、眼科医療機器・眼鏡機器メーカーとしての役割を全うし、社会へ貢献していくことが責務であると、改めて感じ入る次第です。

メーカーとして社会の皆様にご貢献していくため、環境経営においてもその責務を十分に理解し、役割を果たしてまいります。環境にやさしい事業運営への取り組みと安全管理や品質確保の取り組みは、今後も継続してまいります。特に、環境への負荷を低減した製品の開発、最終廃棄物の再資源化推進などの取り組みや、節電、ガソリン使用量の削減をはじめとする日々の活動における取り組みなど、メーカーとしての貢献ができるよう努力をしております。

現在は、環境活動の報告として本報告書をまとめておりますが、今後、活動を拡張してより高次の報告ができるよう、活動の充実を図る所存です。

本報告と当社のウェブサイトを通じて、当社の取り組みについてご理解いただければ幸いです。

2013年7月31日

環境経営責任者
常務取締役
コート事業部長

白井 康博

当社は、Eye & Health Careの担い手として医療機器等の製造、販売及びサービス活動を展開している。企業の社会的責任と地球及び地域環境保全の重要性を認識し、循環型社会形成に寄与する改善活動を継続的にこなうものとする。

1. 事業活動に伴う環境側面が環境に与える影響を的確に捉え、環境目的、及び目標を定め、全社員で取組み、環境負荷の低減及び地球温暖化防止を推進するとともに、環境マネジメントシステムの継続的改善を図る。
環境目的及び目標は定期的に見直し、必要に応じ改定する。
2. 環境に係わる法律、規制、条例を順守し、利害関係者の意見を尊重する。
3. 事業活動、製品の製造及びサービスが環境に与える影響を考慮し、特に次の事項について重点的に環境保全活動を推進する。
 - (1) 製品の環境調和
主力製品から、有害物質の排除を促進するとともに、グリーン調達を推進する。
 - (2) 省エネルギー
エネルギー消費の少ない製品設計及び生産プロセスの導入等により省エネルギーを推進する。
 - (3) 廃棄物削減・省資源
資源の有効利用を図るとともに、本来の「ゼロエミッション」を推進して廃棄物等の総排出量の削減を図る。
 - (4) 環境社会貢献
CSRの観点から、環境情報の公開と、地域・社会とのコミュニケーションを通じて、環境保全に貢献する。
 - (5) 化学物質の適正管理
大気汚染、水質汚濁、土壌汚染等の防止に努めるとともに、人の健康及び生物との共存の観点から化学物質の適正な管理を推進する。
4. 環境教育、社内広報活動等により全社員の環境方針の理解及び環境保全に対する意識の向上を図る。また、関連会社に対し理解と協力を求める。

この環境方針は、社外に対して公開する。

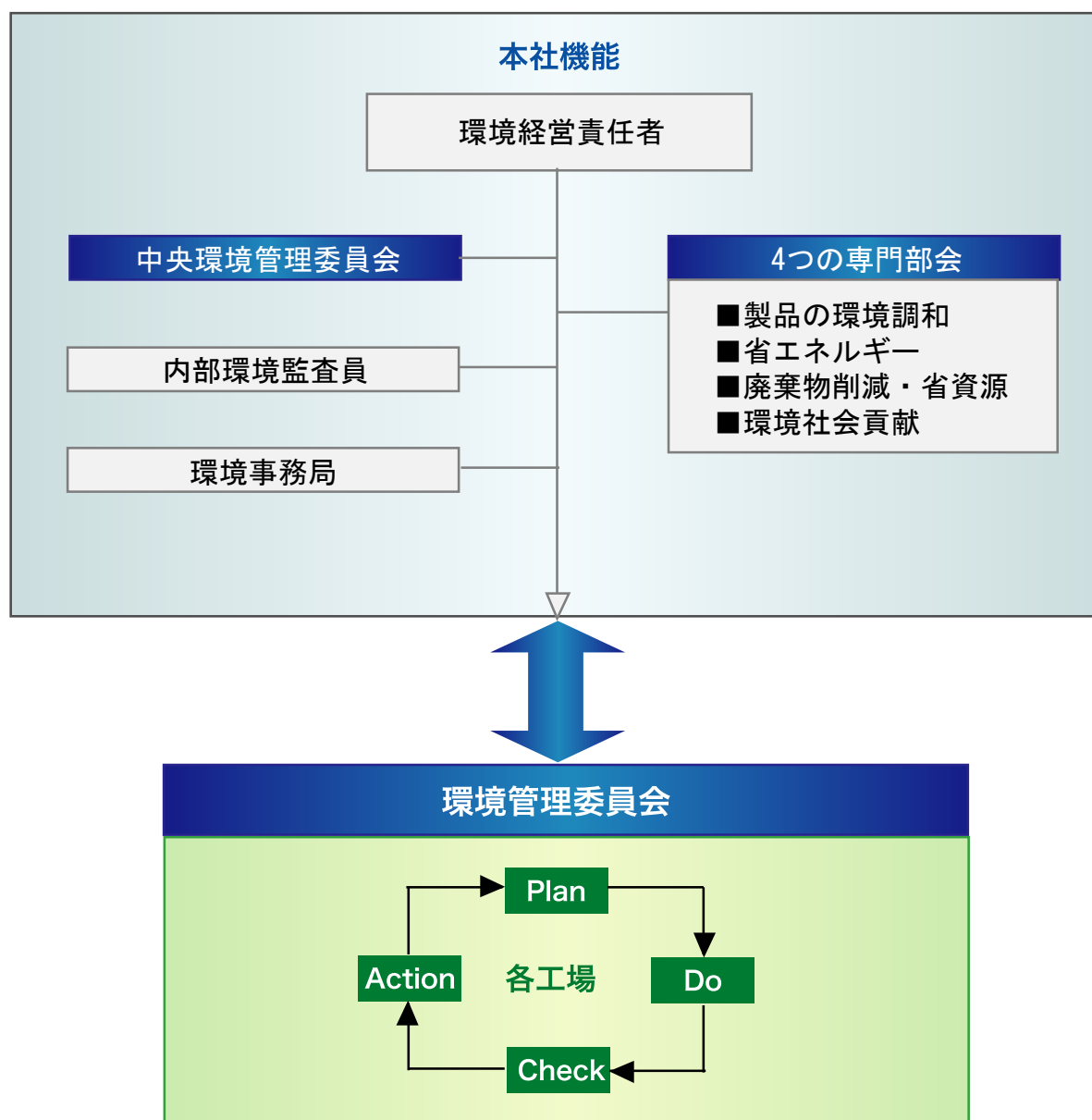
2013年4月1日

株式会社ニデック
環境経営責任者
白井 康博

第11版

ニデック環境管理推進組織図

当社では、環境経営責任者の下に、中央環境管理委員会と4つの専門部会を設置しています。また、各工場に環境管理委員会を置き、工場ごとに改善点を見出し、改善に向けたPDCAサイクルをまわしています。工場ごとの活動を中央環境管理委員会に報告し共有することで、全社をあげた改善を続けています。



2012年度環境保全活動の目標と実績

2012年度の環境保全活動の目標と活動実績のまとめは、次のとおりです。削減項目については、目標値よりさらに低い削減率が達成できました。

	2012年度の目標	活動実績
製品の環境調和	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 環境法規制レビュー、必要な措置の検討及び関係部署への情報提供・指示 ▶ エコ設計の推進(特機製品) 	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 環境法規制等の情報提供件数 1,061件 / 年 ▶ エコ設計の推進(特機製品) モデルチェンジを含む11機種において 製品アセスメントを実施済
省エネルギー	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 売上比原単位電力消費量削減 (2009年度比、3%削減) 	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 売上比原単位電力消費量削減 達成率 104.2% ▶ 拡散ポンプの省エネ化推進、チラー・エアコン の入替え、冷却水の保温 等
廃棄物削減・省資源	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 各サイト設定原単位廃棄物排出量削減 (2009年度比、10%削減) 	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 各サイト設定原単位廃棄物排出量削減 達成度 123.1% ▶ ビニール類の有価物化推進、機密書類の 社内シュレッダーゴミ化の継続 等
環境社会貢献	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 社会貢献活動の継続 ▶ 環境報告書の内容吟味、 同報告書作成と社員への啓蒙 	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 不要パソコンの海外寄附実施、クールビズの 推進&実施、環境ポスターの作製・各工場 集会室に掲示、私の提案に“環境社会貢献” 項目を追加 ▶ 環境報告書：アンケートの実施及び内容の 充実、発行予定9月末を7月末へ前倒し ▶ エコキャップ回収実績 194,079 個 (前年比 120%)

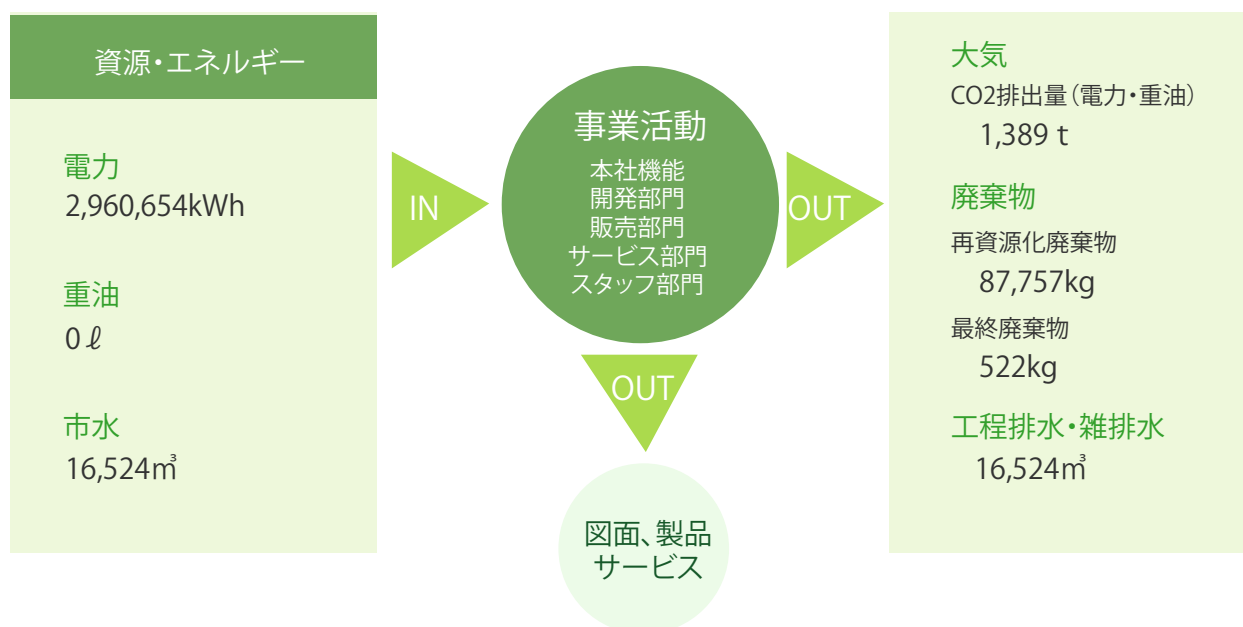
2013年度環境保全活動の目的・目標と設定趣旨

2013年度は、環境保全活動をさらに進めるため、特に削減率の引き上げを中心として目標を見直し、活動を推進します。エコ設計については、製品単位での活動範囲を広げられるよう推進します。

	2013年度の目的	2013年度の目標
製品の環境調和	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 環境法規制レビュー及び必要な措置の実施 ▶ エコ設計(環境配慮設計)の推進 	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 環境法規制レビュー及び必要な措置の実施 ▶ 新製品を中心としたエコ設計の推進 ▶ EU: REACH 規制、RoHS指令(カテゴリー8 中心)への対応
省エネルギー	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 原単位電力消費量の削減(2015年度までに、2012年度比、3%削減) 	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 売上比原単位電力消費量の削減(2012年度比、1%削減)
廃棄物削減・省資源	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 原単位廃棄物排出量の削減(2015年度までに、2012年度比、10%削減) 	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 売上比原単位廃棄物排出量の削減(2012年度比、4%削減)
環境社会貢献	<ul style="list-style-type: none"> ▶ CSRの観点から、環境情報の公開と地域・社会とのコミュニケーションを通じて、環境保全に貢献する 	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 環境報告書の維持、管理 ▶ エコキャップ回収継続 ▶ 地域クリーンキャンペーンへの参加
化学物質の適正管理	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 自主的な化学物質の管理の改善を促進し、人の健康及び生物との共存を目的として、化学物質の使用量の削減、品種の削減及びより環境リスクの低い代替品の使用を検討・推進する 	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 具体的な目的・目標は各工場または主管部門、部署(職場)、グループにて設定する * 法的要求事項及びその他の要求事項並びに技術上の選択肢、財務上、運用上、事業場の要求事項、利害関係者の見解も考慮する。
工場の著しい環境側面の低減	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 工場の環境影響評価より、環境に著しい影響を与える可能性のある側面(著しい環境側面)の低減に継続的に取り組む 	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 具体的な目的・目標は各工場または主管部門、部署(職場)、グループにて設定する * 法的要求事項及びその他の要求事項並びに技術上の選択肢、財務上、運用上、事業場の要求事項、利害関係者の見解も考慮する。

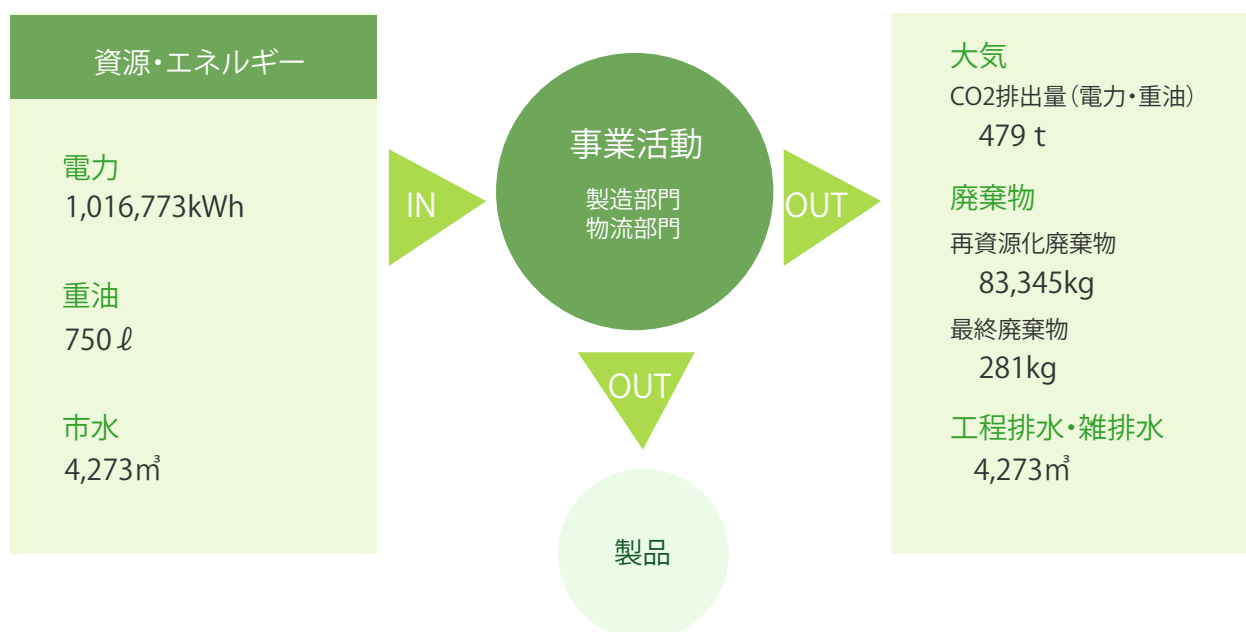
本社(拾石工場)

会社運営における本社機能を中心に、開発部門、一部の製造部門、販売部門、サービス部門、スタッフ部門が業務を展開しています。



浜町工場

製品の部品購入、組立、部品や製品の検査、および物流の専門工場です。太陽光発電設備を備えています。

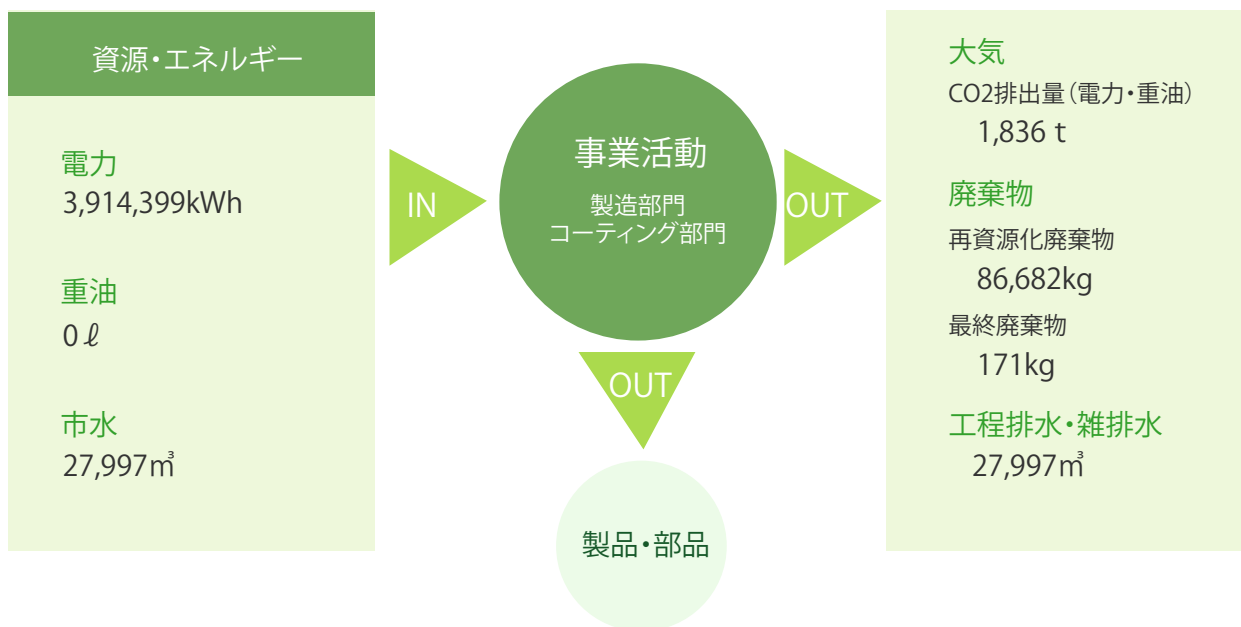


電気調整後排出係数
A重油排出量算定係数

0.000469 (t-CO2/kWh)
2.71 (t-CO2/kℓ)

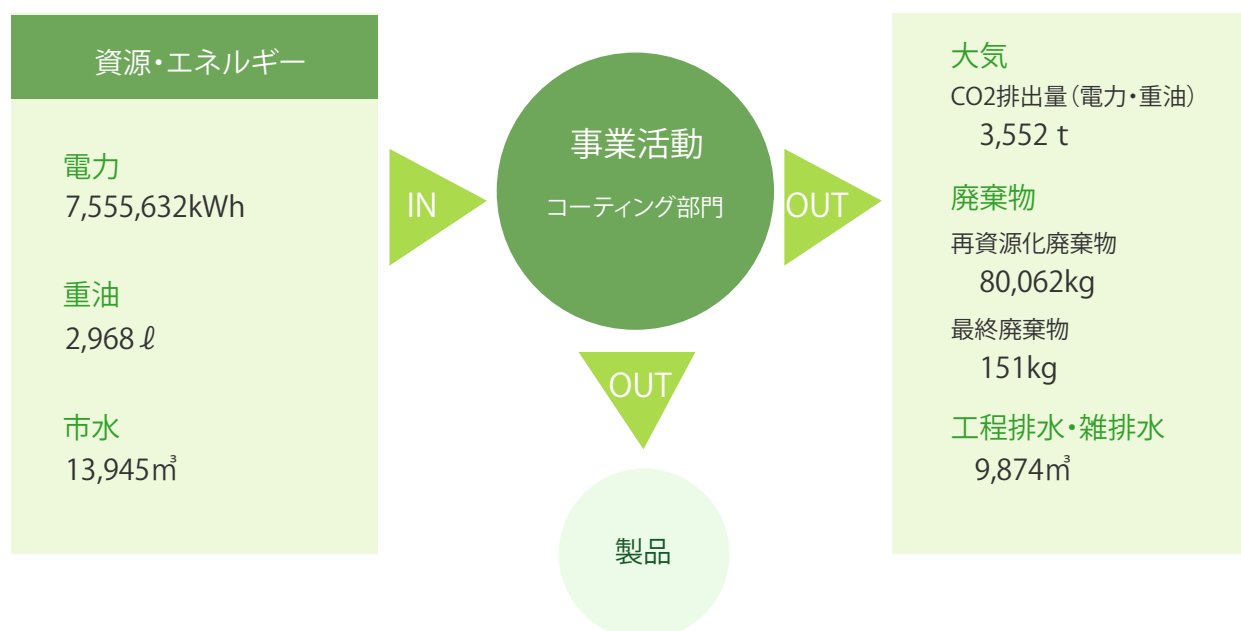
鶴ヶ浜工場

光学部品など製品内で使用する部品の製造や、眼鏡レンズへのコーティングをおこなう工場です。



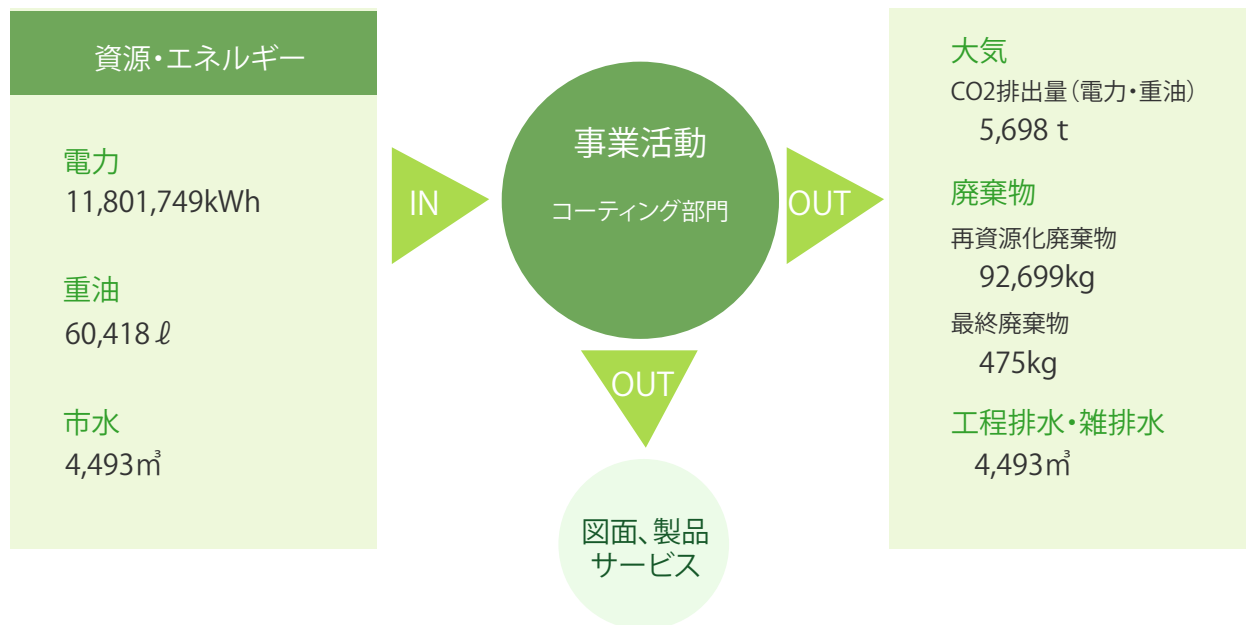
東浜工場

光学フィルターなどのコーティング工場として操業しています。



大沢工場

光学部品やディスプレイなどの基板表面へ、反射防止膜をはじめとするさまざまなコーティングをおこなう工場です。真空蒸着によるコーティング工場としては日本最大級の設備を備えています。また、太陽光発電設備を備えています。



家庭でできる環境対策

私たちの身の回りにも地球温暖化や環境対策につながる家庭でできるエコロジーな取り組みがあります。ここでは、家庭や身近でできる省エネ対策やリサイクルについて紹介します。皆さんも、ぜひ、取り組んでみてはいかがでしょうか。

ゴミの量を減らして分別

日本で排出されるごみの量は1年間で東京ドーム1万杯以上。ゴミの量を減らすため、必要な分だけ使うようにし、正しく分別してリサイクルしましょう。

エコバック

レジ袋は一人当たり年間300枚程度使われています。エコバックに切り替えてエネルギー対策をしましょう。

ホットスタート

自動車やパソコンなど、十分にあたたまってから走行・使用し始めた方が、消費ガソリン・電気量が少なくなると言われています。少し待ってから使いましょう。

環境家計簿

CO2の排出量を環境家計簿でチェックしてECO意識を高めましょう。



●環境家計簿: 関西電力Webサイト
<http://www1.kepco.co.jp/kankyoku/co2kakeibo/index.html>

CO2排出量(電力及び燃料)

●使用資源・エネルギー別の排出量

各資源/エネルギーの使用量をCO2に換算した場合、電力によるCO2排出が大半であることが読み取れます。当社では、日頃から電力の節約に全社的に力を入れております。前年度から、より正確なCO2排出量を算出するため、係数は環境省発表の係数を採択しました。



電力

12,781.00t
(全体の96.5%)



A重油

173.00 t



ガソリン

258.45t



軽油

19.65t

総計 13,232.10t
前年比 117.4%

*今年度から、社用車のガソリン・軽油使用量も報告に含めます(5工場+蒲郡支店)



太陽光発電の導入

当社は、燃料を使用したCO2の排出量を削減するため、2009年3月から浜町工場と、2013年2月から大沢工場の屋上に太陽光発電システムを導入しました。太陽光発電による電力は、浜町工場の電力の一部として利用しています。2012年度の月別の発電力(*)実績は、日照量に応じて変動はありますが、年間約66,540.8kWhの電力を発電しています。

*パワーコンディショナー出力電力量



大沢工場に設置した太陽光パネル

太陽光による発電により、どのくらいCO2の削減ができたのでしょうか。木が吸収するCO2量に換算して考えると、2012年度は約1,495本の杉の木を植樹したと同じ効果を得られました。



約1,495本

植樹の本数 = 発電量(kWh) × 0.02246

杉の木⇒1本あたり約14KgのCO2を吸収

計算係数:「地球温暖化防止のための緑の吸収源対策」 環境庁・林野庁を参考に計算式を算出

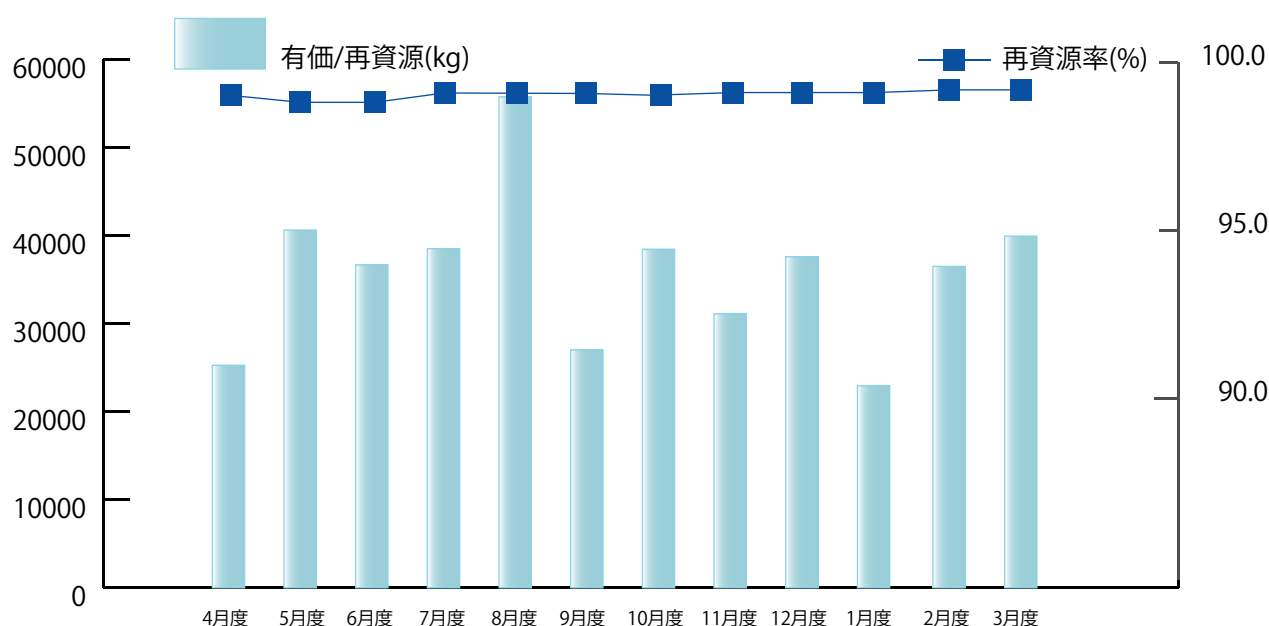
廃棄物量/PRTR法対象化学物質使用量

●廃棄物量／再資源化率の月別推移

廃棄物のゼロエミッション達成に向け、最終廃棄物の内容分析をし、再資源化率の向上を目指して全社的に活動を展開しています。2012年度も、99%以上の再資源化を通年で達成することができました。

単位：kg

	4月度	5月度	6月度	7月度	8月度	9月度	10月度	11月度	12月度	1月度	2月度	3月度	合計
有価/再資源	25,282	40,641	36,684	38,517	55,772	27,018	38,467	31,131	37,609	22,953	36,511	39,959	430,544
最終廃棄	106	232	223	121	194	95	167	106	125	65	81	87	1,600
合計	25,387	40,872	36,907	38,638	55,965	27,113	38,634	31,237	37,734	23,018	36,592	40,045	432,144
再資源化率	99.6%	99.4%	99.4%	99.7%	99.7%	99.7%	99.6%	99.7%	99.7%	99.7%	99.8%	99.8%	99.6%



●特別管理産業廃棄物量

特別管理産業廃棄物は、1事業所で年間50t以上排出すると、多量排出事業所として行政への報告が必要になります。2012年度は、対前年比で77.0%と排出量が減少しました。今後も最低限の廃棄物量に留められるよう、排出量のチェックと削減努力を強化します。

	拾石工場	浜町工場	鶴ヶ浜工場	東浜工場	大沢工場	計	対前年比
排出量	16,352	4,047	12,474	25,089	1,461	59,423	77.0%

単位：kg

●PRTR法対象化学物質使用量

PRTR法(*)に基づく第一種指定化学物質の2012年度の使用量について、経済産業省への届出対象となる鶴ヶ浜工場の使用量です。

鶴ヶ浜工場HCFC-225：1,000 kg (2011年度より△100 kg)

*特定化学物質の環境への排出量の把握および管理の改善の促進に関する法律

環境調和型製品のご紹介

当社は、環境関連法規制への対応はもちろんのこと、環境への負荷を低減した製品の開発・製造を推進しています。2012年度には3つの環境調和型製品を発売いたしました。いずれも環境に配慮した設計により、性能や機能を向上させながらも、製品の分解性の向上および材料の再資源化を容易にし、環境への負荷低減を実現した製品です。

●2012年度に発売した環境調和型製品

サテライトトレーサー LT-980STD

メガネフレームの玉型形状を測定する装置です。フレームの玉型形状を三次元測定します。トレース操作は、フレーム等をセットしてスイッチを押すだけで簡単です。

従来機では難しかったハイカーブフレームにも対応しています。

従来機と比べ、本体をコンパクト化し、本体重量を15%軽量化しました。廃棄物削減や省資源化に貢献しています。



ロボティックハンドリングユニット RHU-2200

メガネレンズの自動加工ラインにおいて、システムエッジャー SE-9090 Supraを接続可能であり、レンズを自動的に高速搬送する装置です。省スペースに有効なレンズ集中加工ラボ用システムができあがります。

従来機と比べ本体体積を8%減少、重量で24%軽量化しました。廃棄物削減や省資源化に貢献しています。



サテライトトレーサー LT-1200

メガネフレームや型板をトレースしてフレームデータを取得し、レイアウト情報を加えたジョブデータを接続機器に送信する装置です。

従来機と比べ、重量を13%軽量化しました。廃棄物削減や省資源化に貢献しています。



製品の環境調和専門部会からのメッセージ

環境調和型製品の創出においては、製品のライフサイクル全体から環境負荷を把握し、さまざまな角度からの改善を進めています。

環境負荷低減には「製品アセスメント実施規程」を基に、企画・設計段階から負荷低減を考えた活動が重要と位置づけ、開発部門や製造部門、並びにサプライチェーンと連携し、積極的な改善に取り組んでいます。

具体的には、再資源化が容易な製品材料の選択、製品の分解を容易にするための部品点数やネジの数の減少、包装資材の省資源化、製品廃棄時における廃棄手順書の提供などです。また、欧州規制(RoHS、WEEE)や中国RoHSへの適応も推進しています。

今後も環境調和型製品の開発を推進し続けることにより、地球環境の負荷低減に努めていきます。

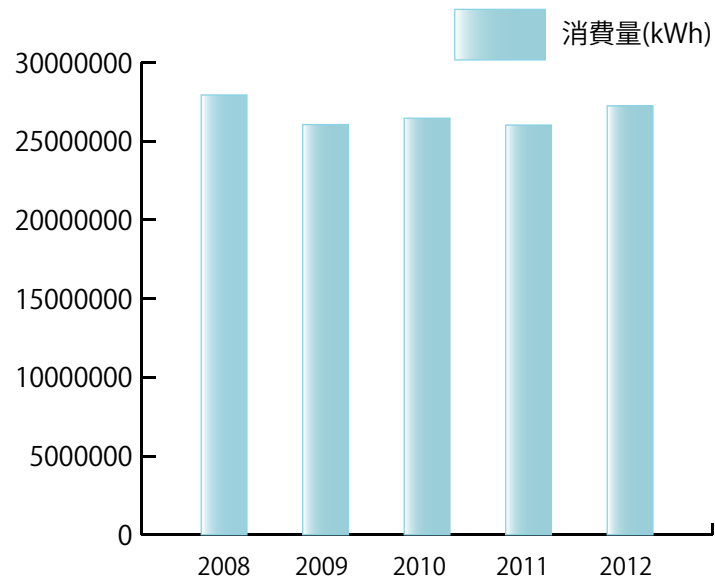
製品の環境調和専門部会
部会長 嶋崎 寛(品質保証部 部長)

電力/重油

●電力消費量

電力消費量は各工場における省エネ活動を継続していますが、2012年度は生産設備を増設したため、生産量が増加し電気消費量を低減出来ませんでした。

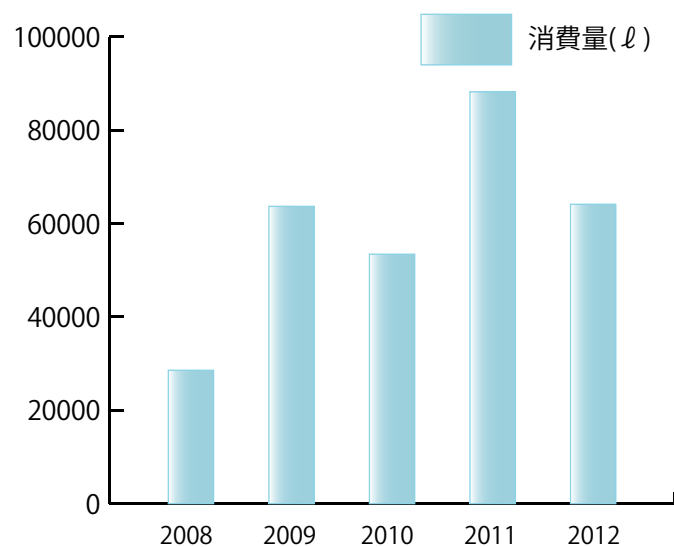
年度	消費量(kWh)
2008	27,940,659
2009	26,061,446
2010	26,465,755
2011	26,030,508
2012	27,249,207



●重油消費量

浜町工場の空調設備見直しにより重油消費量を削減することが出来ました。

年度	消費量(ℓ)
2008	28,571
2009	63,686
2010	53,434
2011	88,222
2012	64,136

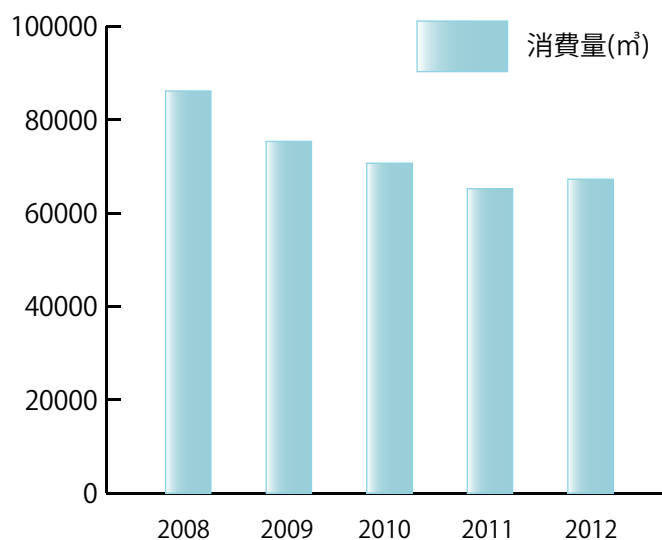


市水/最終廃棄物

●市水消費量

全体としては拾石工場の生産量増加により消費量は増えましたが、その他の工場は節水活動により消費量を削減出来ました。

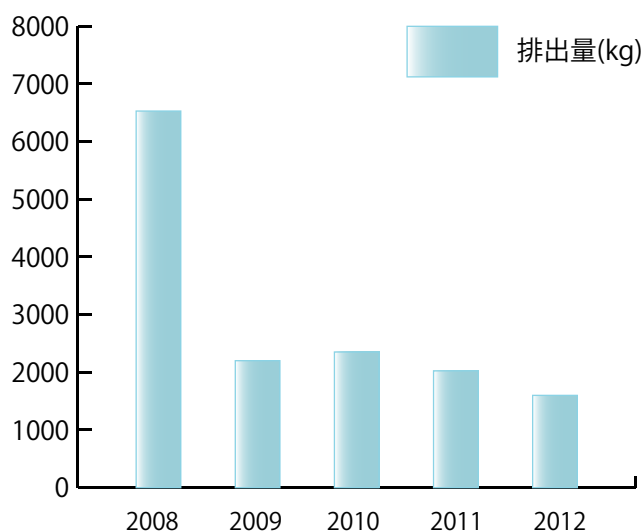
年度	消費量 (m ³)
2008	86,134
2009	75,339
2010	70,650
2011	65,203
2012	67,232



●最終廃棄物排出量

最終廃棄物をさらに分別してリサイクル化を進め、排出量を削減することが出来ました。

年度	消費量 (kg)
2008	6,529
2009	2,201
2010	2,352
2011	2,025
2012	1,600



当社のゼロエミッション

「廃棄物の再資源化率を99%以上」とする。

再資源化率は、「(総排出量 - 最終廃棄物) ÷ 総排出量」で算出する。

*「本来業務での環境負荷低減活動」を実施に際しては廃棄物の単純焼却と埋立てをゼロにすることを視野に入れ、ごみゼロ工場を目指す。

当社では、環境活動以外にも、CSR（企業の社会的責任）の観点から、本業を通じ、また当社でできる活動である地域の美化活動などの環境保全活動や、各種の社会貢献活動に取り組んでいます。2012年度に当社が実施した活動の一部をご紹介します。

●エコキャップの回収

2009年から継続してエコキャップの回収に取り組んでいます。2012年度は、全社194,079個のキャップが集まり、ワクチンにして約215名分が集まりました。今後も、この活動を継続して取り組みます。



●クリーンキャンペーンへの参加

年に2回の蒲郡市のクリーンキャンペーンに合わせ、各工場の周りを清掃する活動に継続的に参加しています。また、ニデック・フィッシングクラブも、12年間連続で蒲郡市のクリーンキャンペーンでの清掃活動にボランティアとして参加しており、定期的な活動として定着しています。



●日本点字図書館への寄附

当社の有志による日本点字図書館への寄附活動も、定期的な活動として定着しています。2012年度は、運営のボランティアスタッフも増え、活動に広がりを感じる取り組みとなりました。視覚障害者のための音声ブックと日本点字図書館の運営費用として寄附をおこないました。



●蒲郡市の科学館でワークショップを実施

近隣の小学生を対象とした科学館の夏休みワークショップの趣旨に賛同し、毎年参加しています。2012年度は、ピンホールカメラを作成するワークショップを通じ、目のしくみを説明しながら理解を深めてもらいました。夏休み中の平日に2回開催し、合わせて約50名が参加しました。



●蒲郡市の中学校で「目の講演」を実施

2010年度から、蒲郡市の小・中学校の保健集会などで、目の健康に関する講演を実施しています。2012年度は、1校で約200名に対し講演をおこないました。目がものを見るしくみの説明のほか、「盲点」を探す実験や「錯視(目の錯覚、ストループ効果)」の体験を通じて、目についての理解を深めてもらいながら、大切にしてくださいようお願いをしました。



●ノートパソコンをカンボジアの中学校へ寄贈

NPO法人オアシス(*)へ、当社で以前使用していたノートパソコンの寄贈をおこないました。カンボジアではまだ子どもたちの就学率が低く、特に中学校への進学率は2割程度です。同法人の支援により学校が建設され、当社から寄贈したパソコンは授業で使用されます。こちらも、継続の取り組みとなります。

(*)NPO法人オアシス

国内外マジック慰問講演、学校建設および修復、自然環境保全のための植樹、医薬品の供与を活動目的とする、蒲郡市に事務所を構えるNPO法人です。



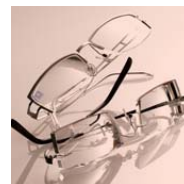
名 称	株式会社ニデック
本 社	〒443-0038 愛知県蒲郡市拾石町前浜 34-14 Tel. 0533-67-6611
代 表 者	代表取締役社長 小澤素生
設 立	1971年7月7日（創業日8月8日）
資 本 金	4億6189万円
売 上 高	333.5億円（2008年度） 299.2億円（2009年度） 307.9億円（2010年度） 314.8億円（2011年度） 335.3億円（2012年度）
従業員数	1,449名（2013年3月末日現在）

●事業内容



医療分野

高精度な眼科向け手術装置、レーザ機器、検査診断装置などの開発・製造・販売を総合的にこなしています。近年では、活躍の場を健診分野にも広げています。



眼鏡機器分野

視力測定、レンズ測定、レンズ加工といったメガネづくりの全工程を支えているのは、ニデックの“確かな技術”です。省スペース化、作業の効率化を実現し、見える喜び、かける喜びを感じていただくお手伝いをしています。

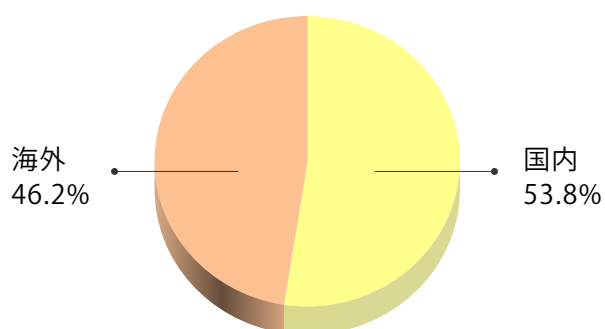


コーティング分野

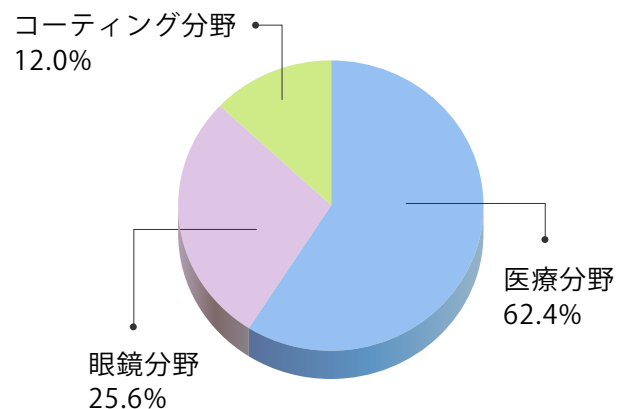
コーティングは、光学材料などへの反射防止や、特定波長だけを透過・反射させる“光を操る先端技術”です。メガネレンズをはじめ、情報通信・自動車・医療・宇宙工学など、多彩な分野で活用されています。

●2012年度売上比率データ

海外輸出比率



売上構成比率



●本社(拾石工場)



住所 〒443-0038 愛知県蒲郡市拾石町前浜34-14
 環境管理責任者 総務部 部長 近藤雅人
 敷地面積 29,969 m²
 建物(延) 13,199 m²
 従業員数 646名
 設置 1976年(昭和51年)

●東浜工場



住所 〒443-0036 愛知県蒲郡市浜町73-1
 環境管理責任者 コート生産部 部長 石井雅敏
 敷地面積 13,155 m²
 建物(延) 8,992 m²
 従業員数 71名
 設置 1996年(平成8年)

●浜町工場



住所 〒443-0036 愛知県蒲郡市浜町67-4
 環境管理責任者 機器製造部 部長 加藤眞吾
 敷地面積 22,200 m²
 建物(延) 13,326 m²
 従業員数 335名
 設置 1984年(昭和59年)

●大沢工場



住所 〒443-0104 愛知県蒲郡市形原町大沢27-4
 環境管理責任者 コート事業企画室 室長 柴田芳宏
 敷地面積 57,395 m²
 建物(延) 11,032 m²
 従業員数 140名
 設置 2000年(平成12年)

●鶴ヶ浜工場



住所 〒443-0036 愛知県蒲郡市浜町23-1
 環境管理責任者 部品製造部 部長 植村克彦
 敷地面積 14,820 m²
 建物(延) 6,870 m²
 従業員数 106名
 設置 1989年(平成元年)

敷地面積、建物(延)、従業員数：2013年3月31日時点
 従業員数：本頁では役員、顧問、嘱託／パート／派遣社員を含む

●報告書基本情報

報告対象組織：株式会社ニデック

本社(拾石工場)
浜町工場(研究棟除く)
鶴ヶ浜工場
東浜工場
大沢工場

報告対象期間：2012年4月1日～2013年3月31日

発行日：2013年7月31日

作成部署：環境社会貢献部会/企画部

●お問い合わせ先

企画部 広報課

Tel: 0533-67-6753

Fax: 0533-67-6610

E-mail: info@nidek.co.jp

※ 当社に関する詳しい情報は、Webサイトをご覧ください。
URL <http://www.nidek.co.jp>

